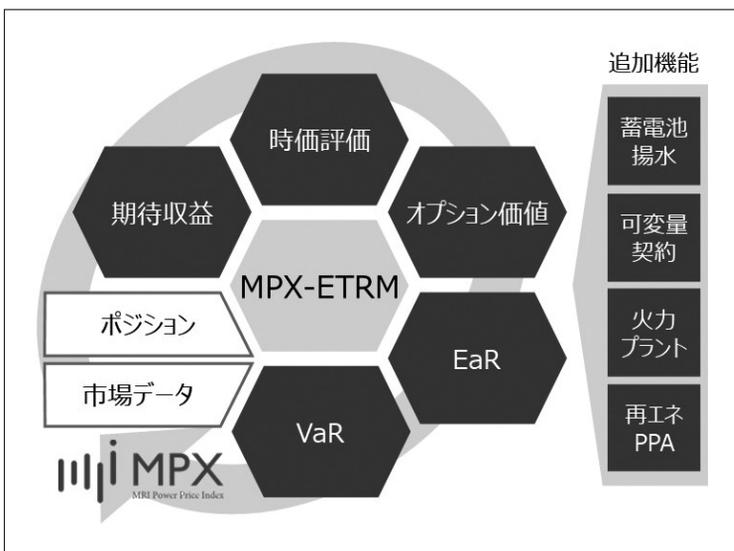


MPX（東京都中央区、荒元社長）は、卸電力取引に特化した情報ベンダーだ。2016年に、三菱総合研究所がオランダKYOS社と共同開発した我が国初の卸電力取引向けフワードカーブ配信サービスがその始まりであり、22年10月に三菱総研からカーブアウトして現在に至る。MPXの電力フオ

ワードカーブ配信サービスは、多くの企業が利用する情報インフラとして定着している。

MPXが提供するリスクマネジメントシステム「MPX-ETRM」も、KYOS社と共同開発したものだ。電力自由化で先行する欧州で多数の導入実績のあるKYOS社のETRMをベースに、MPXが電力フオ

追加機能

蓄電池
揚水可変量
契約火力
プラント再エネ
PPA

日本市場向けに改良したMPX-ETRM

ワードカーブ配信サービスを通じて蓄積してきた知見を活用して日本市場向けに改良した。特に、日本市場固有の値動きをリスク量に適切に反映できる点を特長とする。MPX-ETRMはリスク計量に特化することで短期間での導入を実現している。昨年の正式リリース以来、小売事業者、再生可能エネルギー事業者を中

ポートフォリオの変化に応じ機能追加可能

心に採用が進んでいる。

追加機能もMPX-ETRMの特長だ。日本固有の小売契約、調達契約はもろろんのこと、常時バックアップなどの通告変更契約やオプション取引にも対応している。火力発電や蓄電池などの設備については、その運用の柔軟性をリスク量に反映することができる。天候によって収益が大きく左右される再エネ電源については、市場価格と発電量の相関を考慮した上でリスク量を評価できる。ユーザーは必要な機能に絞ってスモールスタートし、将来ポートフォリオの変化に応じて随時機能を追加することができる。

再エネ事業者として日本で初めてMPX-ETRMを導入したりニューアル・ジャパンの開発本部担当部長の北島琢磨氏は、「再エネ事業の複雑なリスク評価を短期間で実現することができた。導入サポートにあたるメンバーが市場を熟知している安心感がある」と評価する。MPXは、「あらゆるポートフォリオに対応したETRMを提供し、顧客の電力ビジネスの持続的な成長に貢献したいとする。」